

どんびま

2012年9月5日発行

発行者 椛の湖農業小学校

サルスベリ

中津川から下呂へ向かう
国道 257 号線は花街道と
呼ばれ、サルスベリの並木
が随所にある。

名前の由来は、幹の肥大
成長にともなって古い樹皮
のコルク層が剥がれ落ちて
新しいスベスベした感触の
樹皮にかわっていく。それ
が猿も滑るのではと思うほ
ど美しい事による。



花は紅色の濃淡か白色で、小さな花が房のようになり、夏から秋まで代わる代わる咲く。
花の時期が長いので原産地の中国では百日紅と呼ぶ。

日本では百日紅の字をそのままにサルスベリと読む。熟字訓の一例である。

花街道の樹に選ばれたのも花の時期の長い故と思われる。今が花の見頃である。 (草)

9月授業日案内

●日程 9月16日(日)

受付 8:30~9:00

はじめの会 9:00~9:15

授業 9:15~12:00

(栗拾い・畑仕事)

栗拾いには袋を2枚以上お持ち下さい。

栗は有料です。時価で精算して頂きます。

昼食 12:00~13:00

(松茸ご飯、お吸い物ほか)

授業 13:00~15:00

(稲刈り・バケツ稲品評会)

終りの会 15:00~15:30

●持ち物 手袋、タオル、雨具、

着替え 買い物袋 食器、箸

☆バケツ稲を持参してください。

品評会をしますので、必ずお持ち下さい。

**バケツごと持ってこられない方は、刈って
稲束にしてお持ち下さい。**

●締め切り 9月11日(厳守)

●問い合わせ・緊急連絡

TEL0573-75-4417

090-5110-9362 (山内總太郎)

~とくちゃんの農小レポート~

今年のキャンプは絶好調

待ちに待ったキャンプでした。昨年は雨に降られましたが、今年は二日間共好天に恵まれ、残り少ない夏休みを満喫する事ができました。

- 1 午前の授業。** 畑の作業は南瓜とジャガイモの収穫でした。生徒達が種から育てたカボチャは大変成績が良く沢山収穫出来ました。白菜の種を3粒ポットに蒔きましたが、芽が出ると1本仕立ての苗にして育て、来月畑に植え付けますと80日後には立派な白菜として収穫されます。
- 2 かぶと虫運動会。** 先月成長が間に合わなかったカブト虫による運動会が、前回と同じ条件で行いました。
優勝 4G遠藤隆司、2位 2G関愛子、3位 4G田中拓光、5G金沢愛怜奈の皆さんでした。
- 3 川遊び。** 参加希望者は、おにぎり弁当をもらい川上（かわうえ）川に出掛けました。夕森公園の奥から流れてくる川上川に、鱒を放流したのち掴み取りを行いました。例年の事ながら鱒は塩焼きするために、腹だし（内臓を抜きとる）を体験しました。動植物の命を頂いて人間は生きている、の教訓とします。
- 4 キャンプの準備。** 川遊びから帰ると場所をオートキャンプ場に移し、泊まるためのテントの設営にかかりました。初体験のテント立ては苦労の様子だったとか？
- 5 パン作り。** 簡単に出来るパン作りをしました。フランクフルトに帯状にしたパン生地を巻き付け、炭火の上で焼き上げました。6月の荒城農小との交流会で習ったのは竹に巻き付けて焼きましたが、椀の湖ではアレンジしてフランクフルトに巻ききましたので、とても美味しく味あう事ができました。
- 6 夜店の準備。** 各グループ毎の担当やスタッフ達により、盛り沢山の料理が夫々テントの中に用意され、早くも味見客がちらちら姿を見せていました。
- 7 夜店の開店。** 時間遅れながら夜店が開店となり、何処のテントも大繁盛で行列のできる所もある程でした。豚の丸焼き、唐揚げ、フライドポテト、鱒の塩焼き、焼き鳥、焼きいか、焼き生あげ、焼きそば、奴豆腐、フルーツポンチ、トマトとキュウリの丸かじり、野菜サラダ、フランクフルト巻きパン、おにぎり、そして生ビール（有料）、かってない程の盛り沢山の料理が提供されました。皆さんは堪能出来たでしょうか？
- 8 キャンプファイヤー。** 火の長（おさ）を先頭にG長と6年生による、松明行列が現れ火の長の合図により、一斉に点火され赤々と燃えあがりました。その火を囲み歌とゲームなどが行われ盛り上がりました。
- 9 各グループの出し物。** 先月からグループごとで相談した出し物が披露されました。
3Gはドッジボールで、トーナメント方式で優勝グループが決まりました。
1Gはクイズで、オリンピックに関する問題などが提出されました。
5Gは宝さがしで、各Gがファイヤーの灯りの中、宝を求めて出掛けました。
- 10 影絵。** 特別ステージでは以前から伝わる、坂下影絵サークル製作の作品「かぐや姫」が山内そうちゃん指導のもとに、生徒やスタッフ達により上演され、多くの人から拍手喝采を浴びました。

1 1 胆だめし。 ファイナルは例年好評の胆だめしで、2Gと4Gの出し物でした。

二人コンビでペンライトのみの灯りを頼りに、山中を通るコースに出掛けて行きますが、途中で悲鳴やら泣き声などが聞こえていました。昔よく行われたのは墓場の中の通り抜けでしたので、とても怖い思いをしましたが、農小のコースならば余り恐怖は無いのかな？

1 2 物作り体験。 翌日は朝から物作りに挑戦しました。

木工は、各自のアイデアを生かし、飼育箱や椅子などに取り組みました。

竹細工は、水鉄砲や竹馬、竹コップや菜箸、花筒などを完成させました。

染物は、Tシャツに藍の絞り染めを行い、世界で一枚しか無い作品が出来ました。

布草履は、織り込む布にひと工夫有った為、仕上がりが早く全員完成しました。

紙すきは、押し花など持参して、とても個性的な作品が出来ていました。

例年の事ながら時間が少し足りないようで、一部持ち帰りが有りました。

1 3 案山子の陳列。 出来あがった作品は一列に並べ、各家族2枚の用紙により人気投票が行われました。先生やスタッフも一票を投じました。上位には卒業式に表彰され賞品が用意されています。30体を越す作品が並べられ、いずれも良い出来栄ばかりで、投票に迷う程でした。

1 4 流しそうめん。 これも例年大好評で、手すきの人から順次たべました。太い真竹4本を使い二段の樋を二列準備され、次々とソーメンが流され、つゆを付ける間もない程ほおばっていた人もいたそうですが・・・相当量のそーめんが必要だった事でしょう？？いちど使った量を聞いて見たい気もしますが・・・

1 5 案山子立て。 各自の作品三十数体を夫々担いで行き、農小田んぼの脇に立てましたが、担いで向う道中は壮観なものでした。今年も沢山のアマチュアカメラマンが訪れてシャッターを切る事でしょう。来月の稲刈りまで案山子さんに頑張って見張りをしてもらい、沢山のお米が採れる事を祈りましょう。

1 6 持ち帰り。 かぼちゃ、じゃがいも。南瓜は小人数家族でも一個食べられるように、小型の品種が作られています。ジャガイモはこの時期（晴天続き）まで置くと良く実がたって（完熟）美味しく食べれます。

～とくちゃんのちょっと一言～

久しぶりにキャンプファイヤーを堪能しましたが、赤々と燃えあがる火を見ると、若かりし頃に自分達の手で作り上げて燃やした事を思い出します。もちろん今度の様な大がかり（あぼにいの得意芸）程では有りませんが、大いに楽しんだものでした。今では環境問題が厳しくて、焚火ですら出来ない状況で有り、キャンプファイヤーも消防署に届を出さなくてはなりません。

目に見えない放射能の恐怖よりは、目に見える煙の方が安全かな？などと思ってしまうのですが、南極や北極の氷がどんどん解けている様子を見ると、やはり地球温暖化の影響だと思われ、排ガスの規制には関心を持たざるを得ません。将来有る子供（生徒さん）達が安心して暮らせる地球環境作りに、積極的に取り組んで行かなくてはならないと思います。

お知らせ

今回の物作りでの作品は、11月の授業日に作品展を行い、出品展示して頂きたいので、大切に保管しておいて下さい。なお昨年12月から今年1月2月まで行った「課外授業」での作品も出品をお願いします。今回未完成の作品もお家で仕上げた上での出品をお待ちしております。宜しく！

～あぼ兄の百姓ぼなし～

みのりの秋に思う

緑一色だった田んぼも9月に入ると、黄色くなった稲穂が頭を垂れて収穫を待つ。農小の稲の作柄は平年並みである。昨年・一昨年はあぼ兄の肥料設計と管理が悪くて不作だっただけに一安心である。

最近の稲作は作柄を決める天候だけでなく、豊作を台無しにする鳥獣害が大きな問題になっている。

あぼ兄は、8月に中津川市の農業振興10年ビジョンの会議に出席した。地域の農業の将来像の中に、放棄地の解消、担い手不足の解消、特産品づくり等の中に鳥獣害対策の項目も入っていた。

イノシシなどの防護策としては、ネットやワイヤメッシュ、あるいはトタンなどを立てまわす他に、農小のように電気牧柵を張る。各戸ごとの一作物や一区画だけでなく、集落規模の取り組みに変わって来ている。山沿いの耕地では猿の被害も広がりつつあって、防護には手間も費用も嵩んでいる。米・野菜の売上より防護策費用がかかり、農家は作物を作る意欲を失っている。

あぼ兄は、岐阜県の依頼で、イノシシの嫌がる植物を周りに植えて侵入を防ごうという試みの一つとして、実験に取り組んでいる。イノシシの好物のサツマイモ畑の周囲に800本のトウガラシを植えた。ただ、イノシシが来なければ実験にならないので、隣の畑に「イノシシさん、どうぞ食べて!」と誘き寄せる解放区を作って、イノシシの来るのを密かに待っている。

被害の規模が日本とは比べ物にならないのがアメリカの天災である。日本農業新聞(7/15)に「干ばつの米国穀倉地帯、トウモロコシ無残」の見出し。四半世紀ぶりといわれる深刻な干ばつに襲われている米国で、特に乾燥が目立つ中西部では延々と広がるトウモロコシ畑がまるで砂漠のよう、ほとんどの植物が死んでいる状態だと報じていた。

日本の家畜の飼料はほとんどを輸入に頼っている。トウモロコシを原料とする飼料はすでに高騰が始まっているという。

トウモロコシだけでなく、大豆、小麦なども輸入たよりだけに、秋には日本の食卓は大打撃を受けるのではないかと心配だ。そうかと言って、国内生産を急に高めることは無理である。それどころか、耕作放棄地・遊休地が年々増えて、その対策は一向に進んでいない。

8/30、新聞各社のトップ記事は「死者32万人、全壊238万棟」だった。南海トラフ沿いで起きるとされる巨大地震の最悪被害想定が発表された。有識者会議は、最悪クラスの地震M9.1では津波の浸水域は東日本の1.8倍になり、死者の数は2003年に国が発表した想定13倍に及ぶというショッキングなものであった。

何があっても、地震などの天災に辛うじて生き延びたとしても、人は生きるためには、一日たりとも食べないわけにはいかない。こんな記事も見た。「災害時に備える食の知恵」によると、いざという時に慌てずにすむように、普段から非常時に近い食生活をしておくことだと言う。たとえば乾物の利用とある。その一つがお米。お米があればなんとかなる。7月に行った飯ゴウ炊飯はそのための体験でもあったのである。

コンビニなどでオニギリが売られて米飯食が増えたと思っていたが、最近の報道では、パン・麺類に逆転されたという。岐阜県でも5年前まで「和食文化推進運動」が続けられていて、農小もメンバーの一員として関わっていた。健康面など和食の良さ・すばらしさは分かっている、なかなかひろまらないのが現状である。

みのりの秋、皆で喜び合うと同時に、輸入に頼った低い自給率の日本の現状を知って、個々の生活を見直す機会になればよいと願っている。

かなちゃんの虫日記～

こないだ、バレイのおけいこ^{ちゅう}中に、首^{くび}ががゆくなり、
 何か^{なに}かと思^{おも}ったら、大好きなケシカタビロアメンホ^{だいす}でした!!
 練習^{れんしゅう}を見^みにきてくれたのかと^{おも}ってうれしくなりましたが、
 ライトに飛^とんでくる小生^{せい}質^{しつ}があるので、きつとまよい
 こんできたのでしょ。

ところで、今^{いま}はイネかりの季節^{きせつ}まっさかりですが、
 こんな時^{とき}、なやみのタネになるのは斑^{はん}点^{てん}米^{まい}です。

イネの穂^ほがでて、お米^{こめ}つぶ^{つぶ}に育^{そだ}つとちゅうに
 カメムシにさされると、お米^{こめ}つぶ^{つぶ}が
 部分的^{ぶぶんてき}に黒^{くろ}くなってしまう。



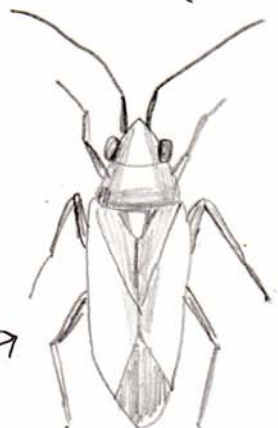
この斑^{はん}点^{てん}米^{まい}だけを^{あつ}集^{あつ}めてたいたごはんは^{にか}苦^くいですが、
 すこーしだけまざっているというぐらゐなら、^{けんこうてき}健康的^{けんこう}的にも、
^{あじてき}味の^{あじ}的^{てき}にもまったく^{もんだい}問題^{もんだい}ありません。なので、^き気にせず
 もりもりたべましょ!!!



ケシカタビロアメンホ

ほんとは
これらしい

よく^{よく}イ^いは^はて^てま^ます^すが、
 虫^{むし}を^をす^すう、
 植^{しょくぶつ}物^{ぶつ}の^の汁^{じゅう}を^をす^すう



アカスジカスミカメ

ほんものは
これらしい